

HONDA

OWNER'S MANUAL

ジャイロキャンパー



Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 14

メンテナンス P. 34

こんなときは P. 67

インフォメーション P. 73

スペック P. 82

索引 P. 84

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 4
運転するときの注意	P. 7
アクセサリーと改造について	P. 12
積載について	P. 13

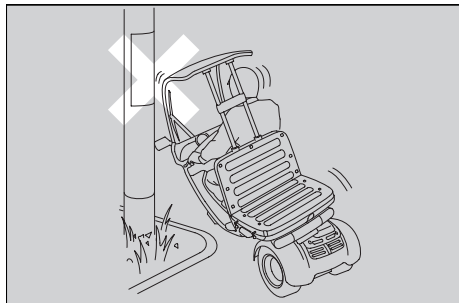
安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法に準じて設けられた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

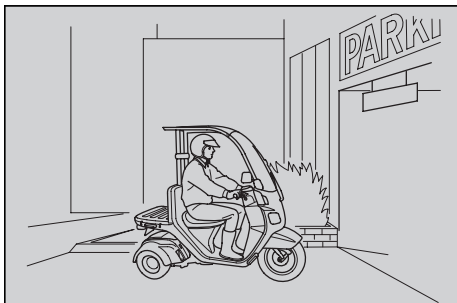
安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください
 - ▶ 足が後輪に接触すると、思わぬ事故をまねきます。
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- カーブでは車体をスイング（内側に傾ける）させて曲がります。
スイング時にはルーフが運転者より内側や外側に来て接触や衝突を起こさないように注意して、走行してください。
 - ▶ カーブを曲がるときは、スピードを控えめに走行してください。
 - ▶ カーブを曲がるときには、二輪車と比べて内輪差が大きくなります。
後輪がカーブ内側の縁石などに乗り上げたりしないようにハンドルをきり、余裕を持った走行ラインで走ってください。
 - ▶ バックミラーを有効に使うて車体幅を確認してください。

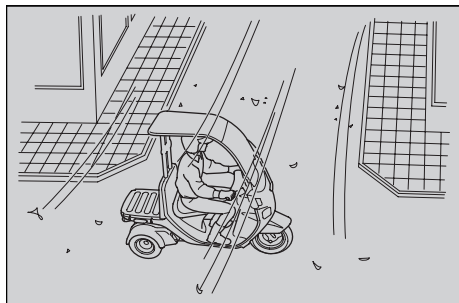


- 他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください
- やむをえず凸凹の路面や段差のある路面を走行する場合は、十分に速度を落として走行してください。

- 高さ制限のあるトンネルなどを通るときは高さに注意してください。
(車の全高は、1,690 mm です。)



- 強い風を受けると走行が不安定になります。風の強い日やビルとビルの谷間を通るときなどは、スピードを控え特に注意してください。



- 雪道や凍った道では必ずスノータイヤを装着し、十分に速度を落として走行してください。スノータイヤのお求めは、Honda 販売店にご相談ください。

乗車時の服装

運転者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

■ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

■ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

■ ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

■ ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント（走行距離 100 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。

● 連続したブレーキ操作をしない

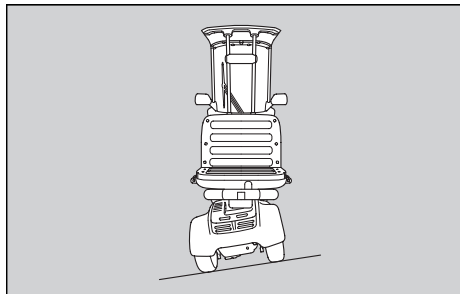
- ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

■ 雨天または水たまりを走行したとき

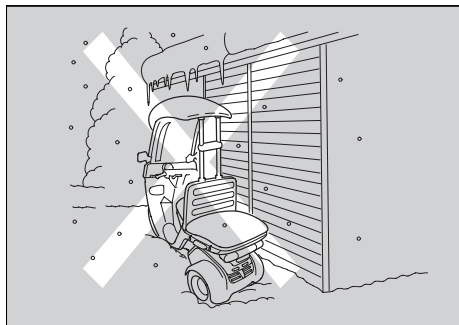
路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

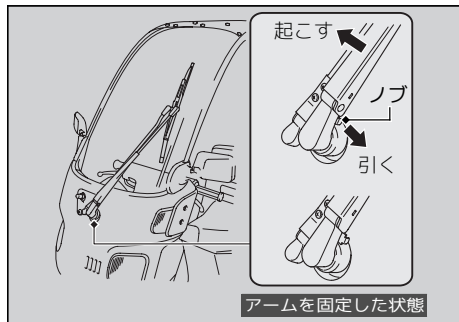
- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
 - ▶ 車体を垂直にし、パーキングロックをかけて駐車してください。▶ P. 22
 - ▶ パーキングロックをかけないと車が転倒します。
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
 - ▶ パーキングロックのスイングロック機構を利用し、車体を垂直にしてください。



- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずパーキングロックをかけ、キーを抜く
- 風の強い日は、車が倒れるのをさけるため安全な場所を選んで駐車する ▶ P. 22
- 雪、氷柱が落下する可能性のあるアーケード、軒下等での駐車はしない



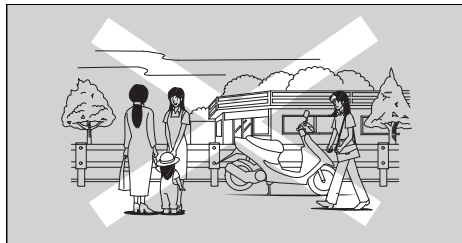
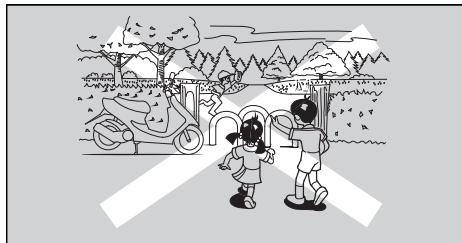
- 雪の日は、ワイパーアームを起こしノブを引きだしてアームを固定する
 - ▶ アームを固定しないと雪の重みでアーム取り付け部が損傷するおそれがあります。



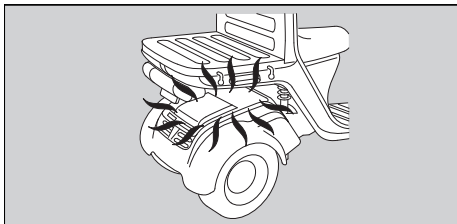
Ⅰ パーキングロックレバーでの駐車

1. メインスイッチを OFF にする。
2. ハンドルバーを直進状態にする。
3. 車体を垂直にし、パーキングロックをかける。
 ➡ P. 22
4. メインスイッチを LOCK にし、キーを抜く。

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- ・ エンジンを止め、火元を遠ざける
- ・ 給油は必ず屋外で行う
- ・ こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- ・ 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。

Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

警告

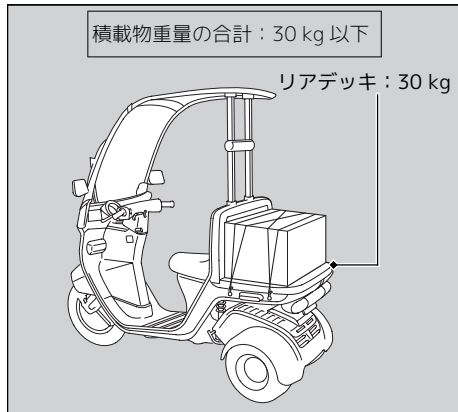
不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ルーフピラーにロープなどを掛けないでください。ルーフピラーが損傷する場合があります。
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ/テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください

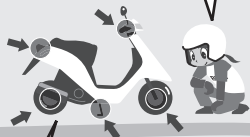
- 荷物の積載は下記重量までです
 - ▶ 但し、積載物の重量は合計で 30kg 以下としてください。
- リアデッキ：30 kg



基本操作の流れ

エンジン始動前 ➡P.35

運転する前に日常点検を行いましょう。
燃料残量を確認しましょう。



エンジン始動 ➡P.24

周囲の安全を確認して、エンジンをかけます。
空ぶかしは避けましょう。

基本装備の使いかた

- メーター／警告灯／表示灯

➡P.18

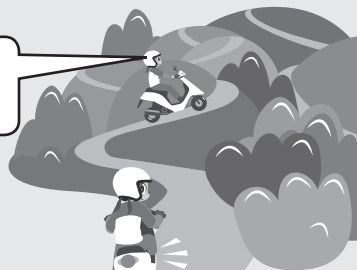
- スイッチ ➡P.20

- パーキングロックレバー

➡P.22

加速 ➡P.28

発進や加速はスロットル
をゆっくり回し、急加速は
避けましょう。



発進

後方の安全や周囲の状況に
注意し、方向指示器で合図
を出し走り出します。



減速 ➡ P.28

STOP!

スロットルを素早く戻し、前後のブレーキの両方を使い速度を下げ、不必要な急ブレーキは避けましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。

停止

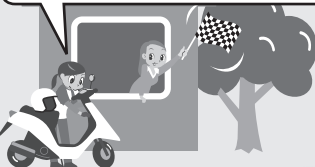
早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車に注意しながら、徐々に路肩に寄ります。

燃料補給 ➡ P.29

ガソリンスタンド

駐車 ➡ P.8

安全な場所に駐車しましょう。
パーキングロックレバーを確認します。



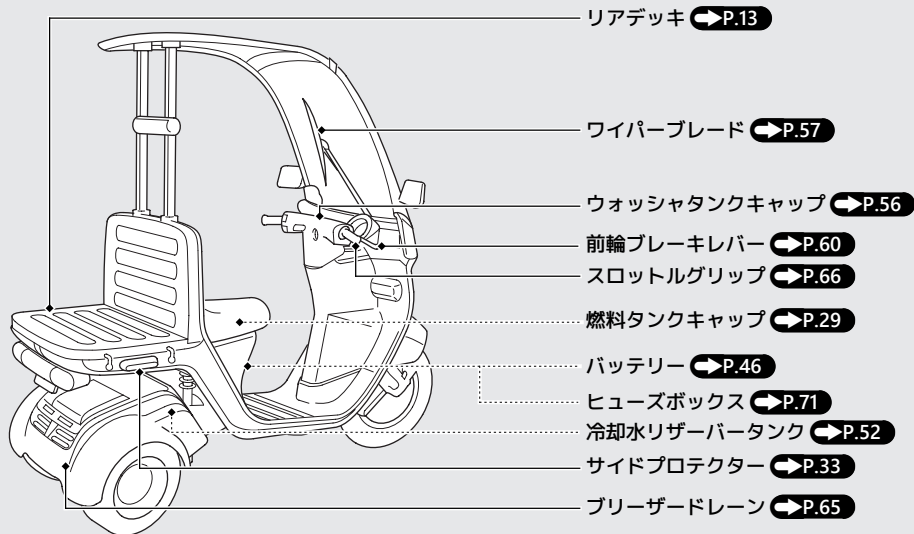
コーナリング

手前で十分に減速して・・・

スロットルをゆっくり回して加速します。

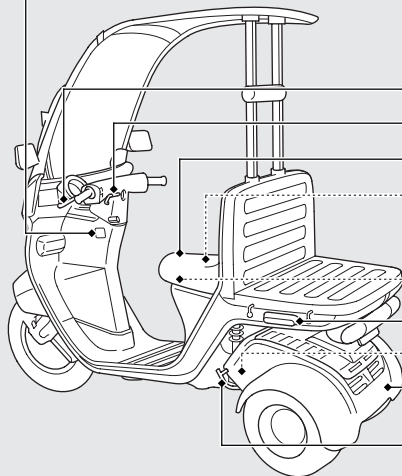


各部の名称



アドバイス

Honda 販売店によるサービス用リッドです。
取り外さないでください。



後輪ブレーキレバー ➡P.60

パーキングロックレバー ➡P.22

シート ➡P.31

書類入れ ➡P.33

ヘルメットホルダー ➡P.32

サイドプロテクター ➡P.33

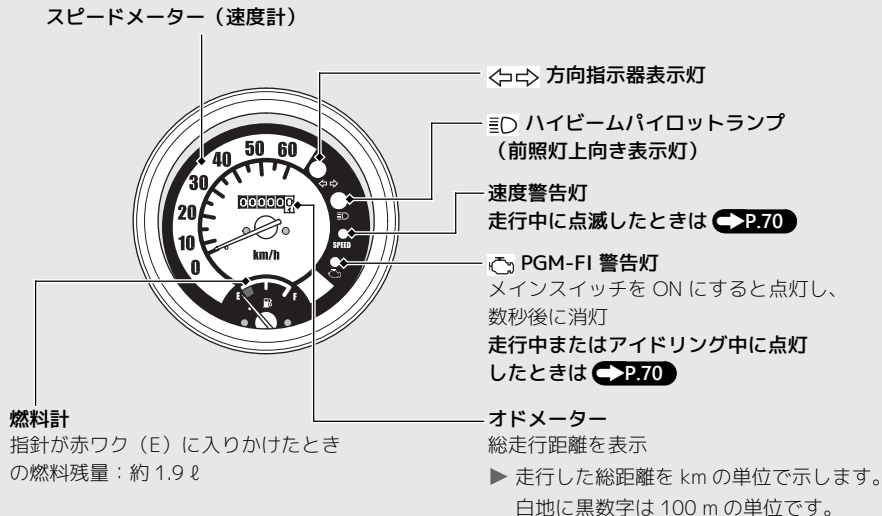
オイルレベルゲージ ➡P.48

トランスミッションオイルチェックボルト
➡P.50

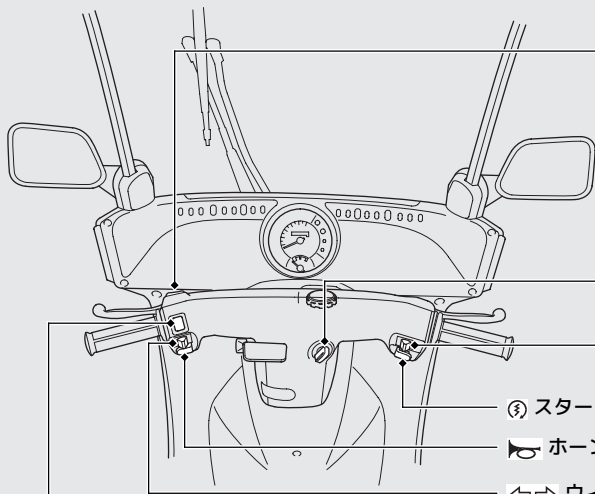
キックstarterペダル ➡P.25

メーター／警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。



スイッチ



ウォッシャ液噴射スイッチ
メインスイッチがON のときに
使用できる。

アドバイス

ウォッシャ液が出ないときは、
ウォッシャ液噴射スイッチを押さ
ないでください。ポンプの故障の
原因となります。

③ スタータースイッチ

🔊 ホーンスイッチ

↔ ウィンカー（方向指示器）スイッチ

ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ

- ≡D（HI）：ヘッドライトが上向き
- ≡D（LO）：ヘッドライトが下向き

▶ 解除はスイッチを中央に戻します。

メインスイッチ

電気回路の ON / OFF に使用

▶ LOCK の位置で、キーを抜くことができます。



LOCK

パーキングロックレバーを固定する

▶ パーキングロックをかけると、LOCK の位置に回せます。

ワイパースイッチ

メインスイッチが ON のときに使用できる。

- ・ ON : ワイパーを 作動する
- ・ OFF : ワイパーを停止する

アドバイス

ワイパーを正しい位置に停止させるため、メインスイッチが ON のままワイパースイッチを OFF にしてください。

パーキングロックレバー

パーキングロックをかけると以下の状態になります。

- 後輪がロックされる
- 車体がロックされ、スイングしない

警告

走行中にパーキングロックレバーを上げると、後輪がロックすると共に車体がスイングしなくなります。これらは、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

走行中は、パーキングロックレバーを操作しないでください。パーキングロックレバーの操作は、車が完全に停止してから行ってください。

かけかた

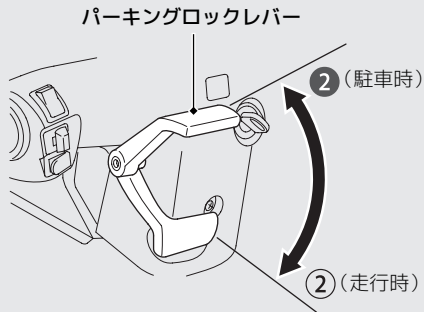
- ① 車体を垂直にする。
- ② パーキングロックレバーを上げる。
 - ▶ 車体を軽く揺すり、車体が固定されていることを確認してください。
- ③ メインスイッチを LOCK にする。
 - ▶ メインスイッチを LOCK にすると、パーキングロックレバーが動かなくなります。

アドバイス

スイングロック機構は、5 段階の位置でロックできます。必ず車体が垂直に最も近い状態でロックしてください。

解除のしかた

- ① メインスイッチを OFF または ON にする。
- ② 車体を垂直にしたまま、パーキングロックレバーを下げる。



エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。

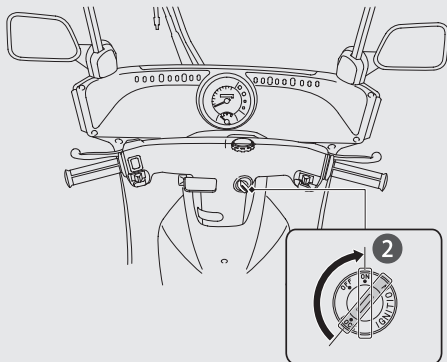
アドバイス

- ・ スタータースイッチを押して 5 秒以内にエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを OFF にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- ・ 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- ・ 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを OFF にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。
- ・ エンジンを始動するとき、スロットルを全開にしないでください。スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとする、PGM-FI ユニットは燃料供給を停止させます。したがってエンジンは始動しません。
- ・ エンジンがかかっているときパーキングロックをかけた状態でスロットルグリップを回さないでください。動力伝達装置が異常摩耗をおこします。

① パーキングロックされていることを確認する。

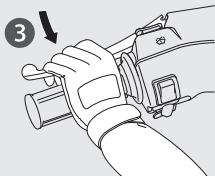
➡ P.22

② メインスイッチを ON に回す。



③ 後輪ブレーキレバーを強く握り、タイヤをロックする。

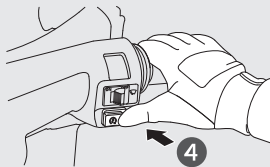
- ▶ 後輪ブレーキレバーを強く握った状態でないとエンジンはかかりません。



④ スタータースイッチで始動する場合

スロットルグリップを完全に閉じたまま、スタータースイッチを押す。

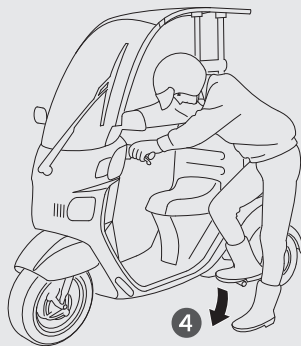
- ▶ エンジンがかかったらすぐに、スタータースイッチから手をはなしてください。



キックスターターペダルで始動する場合

スロットルグリップを完全に閉じたまま、キックスターターペダルを力強くキックする。

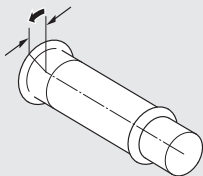
- ▶ エンジンがかかったら、必ずキックスターターペダルをたたんでください。



エンジン始動 前ページの続き

もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに（3 mm 程度）回しながら、スタータースイッチを押すか、キックスターターペダルを使用してください。

3 mm 程度



長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを普段より多めに使用してください。バッテリーあがりを防ぐため、スターターモーターは連続して 15 秒以上回さないでください。15 秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度メインスイッチを OFF に戻して 10 秒以上待ってから再始動してください。

それでも始動できないときは ➡ P.68

エンジンがかからないときは

次の方法を試してください。

- ① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを 5 秒間押す。
- ② 通常手順（②～④）でエンジンをかける。
- ③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し（3 mm 程度）開ける。
- ④ エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、①② の手順を繰り返す。

正しい運転の操作

スタートの手順

- ① 後輪ブレーキレバーを強く握ったまま、パーキングロックを解除する。➡P.22
 - ▶ 車体を軽く揺すり、スイングロック機構が解除されていることを確認してください。
 - ▶ エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。

- ② 車の左側から乗車し、正しい乗車姿勢でシートにしっかりと腰をおろす。このとき足で車が倒れないように支える。
 - ▶ 乗車時はルーフにヘルメットが当たらないように気をつけて乗車してください。
 - ▶ 乗車してスタートするまでは後輪ブレーキレバーを強く握ったままにしておいてください。



正しい運転の操作 前ページの続き

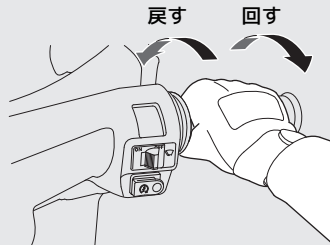
- ③ 後輪ブレーキレバーをはなし、スロットルグリップをゆっくり回し、発進する。

▶ スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

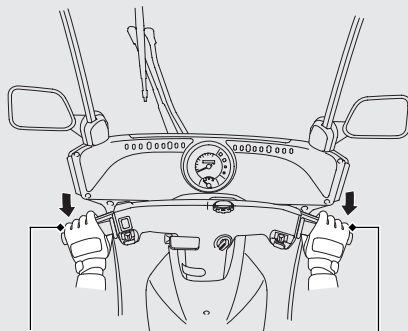
スロットルグリップで速度調整を行う。

加速する・・・スロットルをゆっくり回す。

減速する・・・スロットルをすばやく戻す。



ブレーキの使いかた

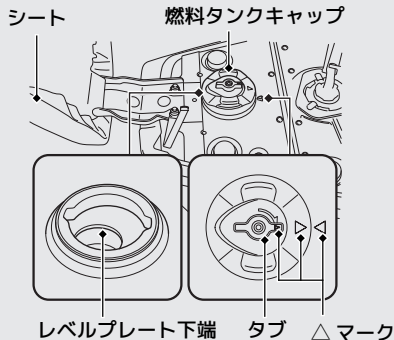


後輪ブレーキレバー

前輪ブレーキレバー

ブレーキは、前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキレバーを同時に使いましょう。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、レベルプレート下端以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：5.9 ℓ

■ 燃料についての注意 ➡ P.11

燃料タンクキャップの開けかた

- 1 シートを開ける。 ➡ P.31
- 2 タブを右に回し、燃料タンクキャップを開ける。

燃料補給 前ページの続き

燃料タンクキャップの閉じかた

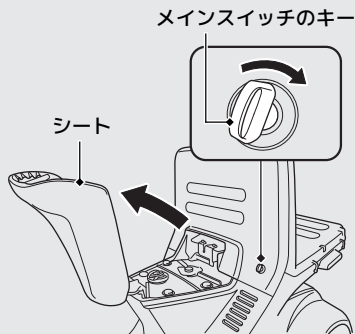
- ① 燃料タンクキャップの △ マークとタンク上面の △ マークを合わせ、カチッと音がするまで燃料タンクキャップを上から押す。
 - ▶ 燃料タンクキャップの △ マークとタブの △ マークが合っていることを確認してください。
 - ▶ 燃料タンクキャップを軽く回し、ロックされていることを確認してください。
- ② シートを閉じる。

警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い  P. 11

その他装備の使いかた



シートの開けかた

キーを右に回してシートロックを解除し、シートを開けます。

シートの閉じかた

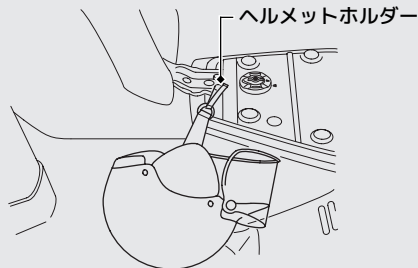
シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。

シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートをロックすると、キーが取り出せなくなりますのでご注意ください。

その他装備の使いかた 前ページの続き

シート下にヘルメットホルダーがあります。



- ▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

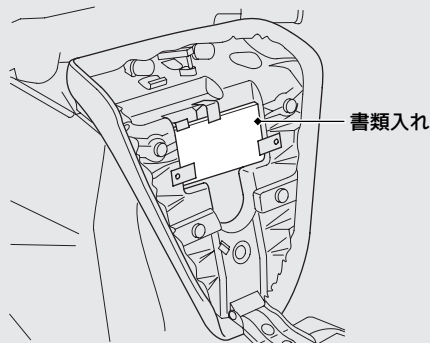
シートの開けかた ➡ P.31

⚠ 警告

ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

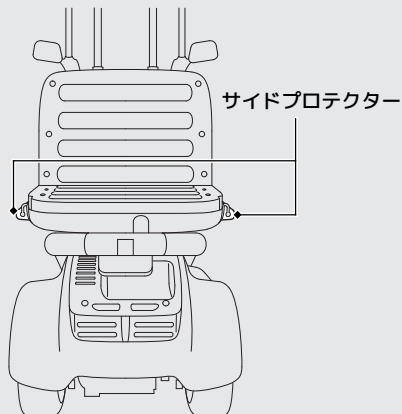
書類入れはシート裏側にあります。



サイドプロテクター

車体後部を支える場合は、サイドプロテクターを持ちます。

- ▶ ウィンドスクリーンやルーフを持って車を動かさないでください。ウィンドスクリーンやルーフに衝撃を与えると損傷するおそれがあります。



メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識	P. 35
主要部品の脱着方法	P. 46
バッテリー	P. 46
バッテリーカバー	P. 47
エンジンオイル	P. 48
トランスミッションオイル	P. 50
冷却水	P. 52
ウォッシュ液	P. 55
ワイパー	P. 57
ブレーキ	P. 60
ブリーザードレーン	P. 65
スロットル	P. 66

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12か月ごと）、2年ごと（24か月ごと）の定期点検整備を設けてあります。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・ 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・ 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 足場のしっかりとした平坦地で車体を垂直にし、パーキングロックをかけた状態で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

Ⅰ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・ レバーの遊び（機械式）
- ・ ブレーキの効き具合

● タイヤ

- ・ 空気圧
- ・ 亀裂、損傷
- ・ 異状な摩耗
- ・ 溝の深さ

● エンジン

- ・ 冷却水の量
- ・ オイルの量
- ・ かかり具合、異音
- ・ 低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

● 運行において異状が認められた箇所

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

Ⅰ 道路運送車両法に準じて設けられた点検

道路運送車両法に準じて設けられた点検には、以下の種類があります。

● 日常点検

● 1年ごと（12 か月ごと）に行う点検

● 2年ごと（24 か月ごと）に行う点検

Ⅰ ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

Ⅰ 1 か月目点検について

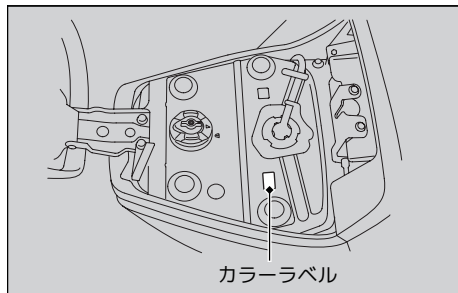
新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

Ⅰ 交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを開けると確認できます。

▶ P. 31



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。

- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

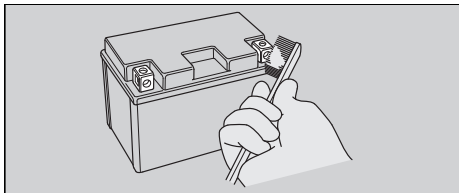
⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- ・ バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

■ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。▶ P. 46
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



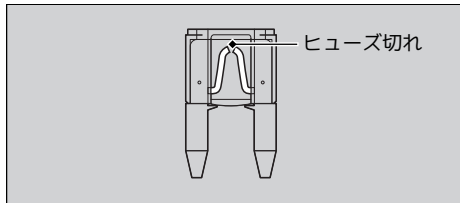
4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。
電装部品やアクセサリを取り付けるときは純正アクセサリをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。▶ P. 71

■ヒューズの点検・交換

メインスイッチを OFF にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。▶ P. 83




アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱・焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。 P. 82

エンジンオイルの選びかた

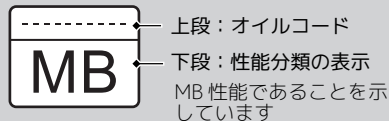
推奨エンジンオイル：

Honda 純正 ウルトラ E1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※¹：MB
- SAE 規格※²：10W-30
- API 分類※³：SG・SH・SJ・SL 級相当

※¹：JASO T 903 規格は、二輪車用 4 サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※²：SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※³：API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

トランスミッションオイル

トランスミッションオイルの選びかた

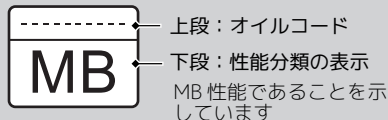
推奨トランスミッションオイル：

Honda 純正 ウルトラ E1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※¹：MB
- SAE 規格※²：10W-30
- API 分類※³：SG・SH・SJ・SL 級相当

※¹：JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※²：SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※³：API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%

濃度による不凍温度：

30% の場合： -16°C まで

50% の場合： -37°C まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。

エアクリーナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。▶ P. 83

ブリーザードレーン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。▶ P. 65

タイヤ

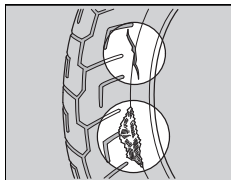
■ 空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

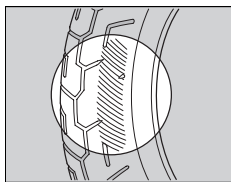
■ 亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。



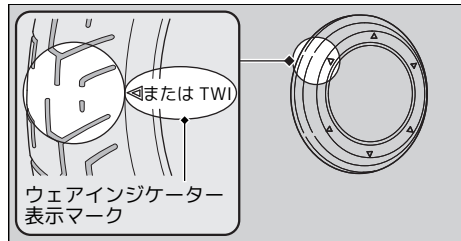
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。



警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

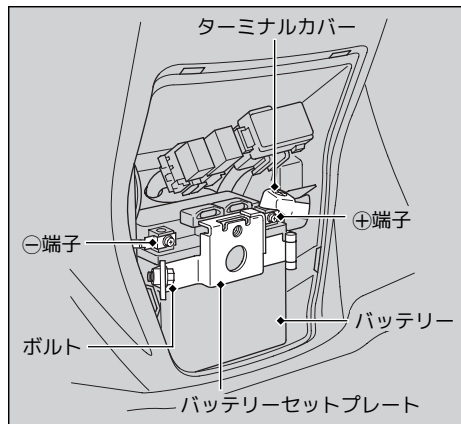
タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧はスペックページをご確認ください。▶ P. 82

警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

バッテリー



Ⅰ取り外し

メインスイッチが OFF になっていることを確認してください。

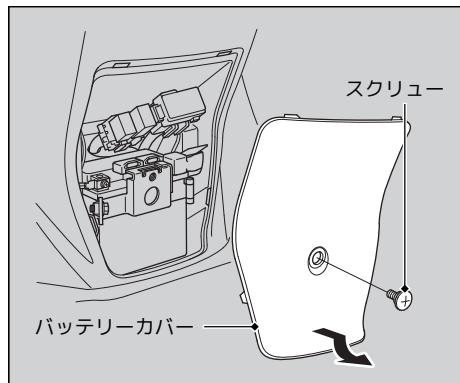
1. バッテリーカバーを取り外す。➡ P. 47
2. -端子のボルトを外し、-コードを外す。
3. ターミナルカバーをめくり、+端子のボルトを外し、+コードを外す。
4. ボルトを取り外し、バッテリーセットプレートを開く。
5. 端子のナットを落とさないようにバッテリーを取り出す。

Ⅱ取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に+側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➡ P. 38

バッテリーカバー



取り外し

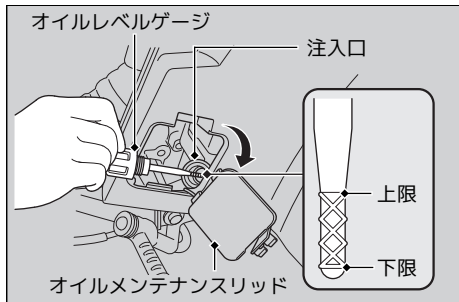
1. スクリューを取り外す。
2. バッテリーカバー下部を上方に浮かしながら手前に引き、バッテリーカバーを取り外す。

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

オイルの量の点検

足場のしっかりとした平坦地で車体が垂直になっていること、パーキングロックがかかっていることを確認してください。▶ P. 22



1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを OFF にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. オイルメンテナンスリッドを取り外す。
4. オイルレベルゲージを外す。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭く。
6. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込む。
7. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。
8. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。
9. オイルメンテナンスリッドを取り付ける。

オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。 ■ P. 40,

■ P. 82

1. オイルメンテナンスリッドを取り外す。
2. エンジンオイルの点検後、オイルレベルゲージで確認（■ P. 48）しながら、オイルを注入口より補給する。
 - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
 - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
3. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。
4. オイルメンテナンスリッドを取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくとも、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

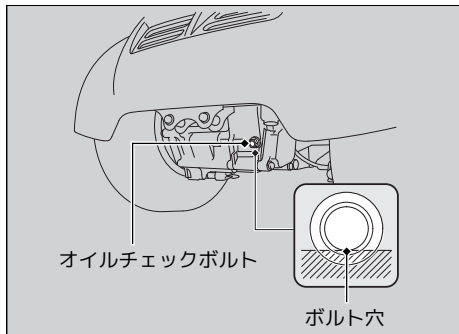
推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ■ P. 40

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

オイルの量の点検

足場のしっかりとした平坦地で車体が垂直になっていること、パーキングロックがかかっていることを確認してください。▶ P. 22



1. オイルチェックボルトを外す。
2. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認する。
3. オイルチェックボルトを確実に取り付ける。

オイルの補給

オイルの油面が低い場合は、推奨オイルをボルト穴の下端まで補給してください。

- 上限を超えて補給しない
- ゴミが入らないようにする
- オイルをこぼしたときは完全に拭き取る

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくとも、トランスミッションに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

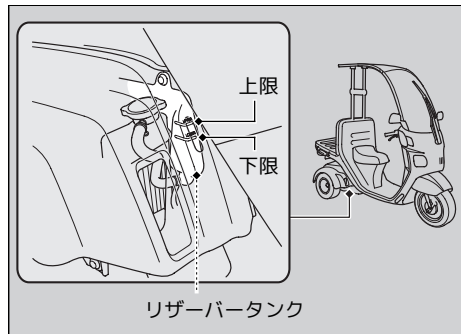
推奨トランスミッションオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➡ P. 41

オイル漏れの点検

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水の量の点検

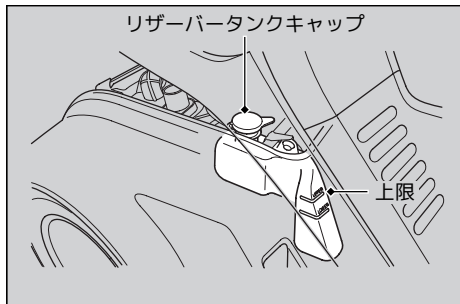
足場のしっかりとした平坦地で車体が垂直になっていること、パーキングロックがかかっていることを確認してください。▶ P. 22



1. 冷却水がリザーバートankの上限(UPPER)と下限(LOWER)の間にあることを確認する。

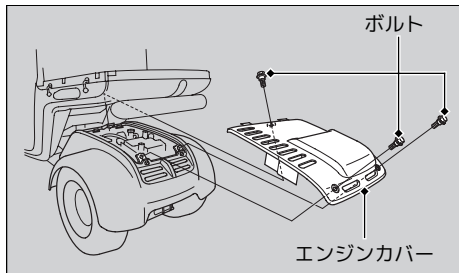
冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバートankに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給



冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. ボルトを外し、エンジンカバーを取り外す。



2. リザーバータンクキャップを取り外す。
3. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水 (■ P. 42) のレベルを確認 (■ P. 52) しながら補給する。
 - ▶ 上限 (UPPER) を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。

4. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。
5. エンジンカバーを取り付ける。



エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

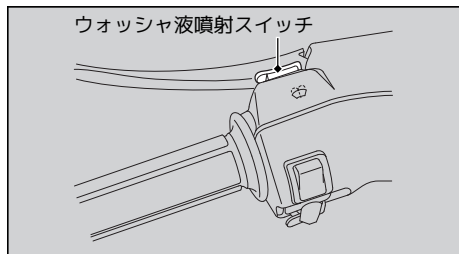
ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

噴射位置の点検

足場のしっかりとした平坦地で車体が垂直になっていること、パーキングロックがかかっていることを確認してください。▶ P. 22

1. ウォッシャ液噴射スイッチを押す。

- ▶ ウォッシャ液がウインドスクリーンのワイパー拭き取り面の中心部に当たるか確認してください。
- ▶ ウォッシャ液がウインドスクリーンを越え、後方に飛ばないことを確認してください。

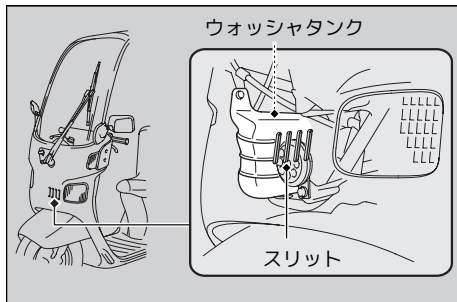


ウォッシャ液が正しい位置に噴射されない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

ウォッシャ液の量の点検

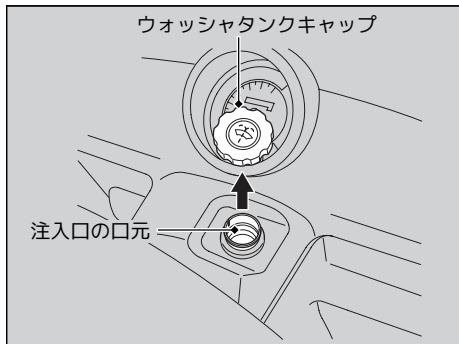
足場のしっかりとした平坦地で車体が垂直になっていること、パーキングロックがかかっていることを確認してください。▶ P. 22

1. スリットからウォッシャタンク内にウォッシャ液が十分に入っているか確認する。



ウォッシュ液の補給

1. ウォッシュタンクキャップを取り外す。
2. ウォッシュ液を注入口の口元まで補給する。
 - ▶ 注入口の口元を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
 - ▶ ウォッシュ液をこぼしたときは完全に拭き取ってください。



アドバイス

- 粗悪品や不凍液、石けん水および他のケミカル用品などをウォッシュ液に使用すると、樹脂部品や塗装面などに害を与えます。
- “Honda ウォッシュ液”には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。ウォッシュ液が凍結するとモーターなどが損傷します。
- ウォッシュ液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシュ液の容器に記載してあります。

“Honda ウォッシュ液”をご使用の場合は、下表を参考に原液を水でうすめてください。

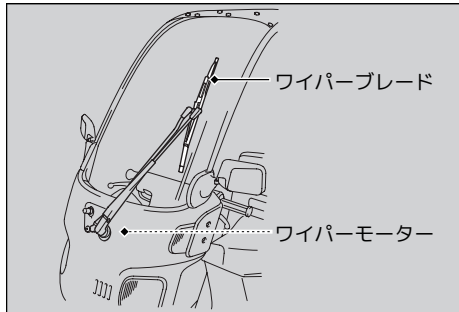
使用地		うすめる割合		凍結温度 ℃
		原液	水	
冬期	寒冷地	1	—	−25 以下
	一般	1	1	−9
夏期	全地域	1	3	−4

補給してもウォッシュ液が噴射しないときは、Honda 販売店にご相談ください。

- 空ぶきはウインドスクリーン、ワイパーブレードを傷める原因となります。ウォッシュ液を噴射してからワイパーを動かしてください。
- ウインドスクリーンに泥や虫などが固着している場合は、ワイパーを動かさないでください。固着物がウインドスクリーンを傷める原因となります。固着物を水で洗い流してからワイパーを動かしてください。
- 寒冷時、ワイパーブレードがウインドスクリーンに張り付くことがあります。張り付いたまま動かすとワイパーの故障の原因となります。ぬるま湯でウインドスクリーンを暖めてからワイパーを動かしてください。
- ウインドスクリーンに着氷、積雪した状態でワイパーを動かすと、ワイパーブレードを損傷したり、ワイパーモーターの故障の原因となります。必ず取り除いてからワイパーを動かしてください。

ワイパーの点検

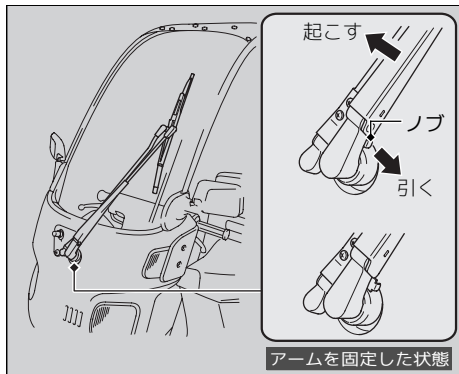
1. ウォッシュ液噴射スイッチを押し、ウォッシュ液を噴射する。
2. ワイパースイッチを ON にする。
 - ▶ ワイパーの拭き取りが円滑かつ良好に行えるか確認してください。
 - ▶ ワイパーモーターやワイパーブレードから異常な音がしないか確認してください。



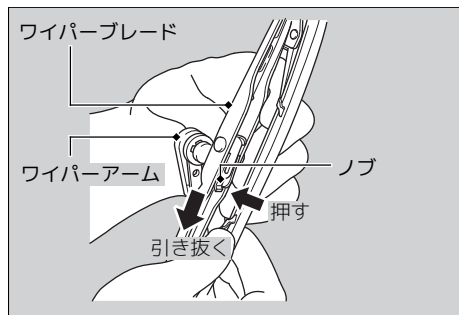
ワイパーブレードラバーの交換

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きむらがあるばかりでなくウインドスクリーンを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

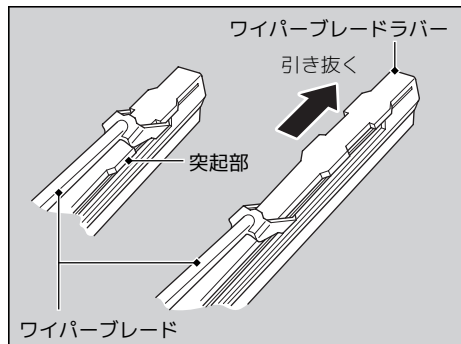
1. ワイパーアームを起しノブを引きだしてアームを固定する。



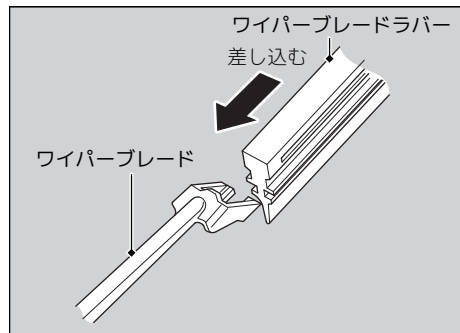
2. ノブを押しながらワイパーブレードを引いて、ワイパーアームから取り外す。



3. ワイパーブレードラバーの突起部が外れるまでワイパーブレードラバーを引き、そのままワイパーブレードから引き抜く。



4. 新品のワイパーブレードラバーを突起部の反対側からワイパーブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れる。

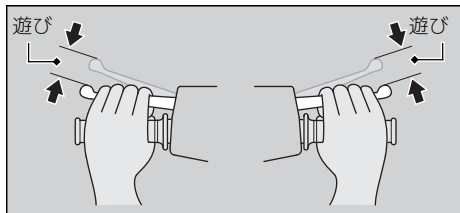


5. 取り外しの逆の手順でワイパーブレードを取り付け、ワイパーアームを戻す。

ブレーキの遊びの点検

抵抗を感じるまで、ブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

ブレーキレバーの遊び：10 - 20 mm

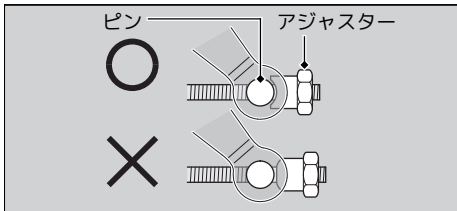


規定の範囲を超えている場合は調整してください。

ブレーキの遊びの調整

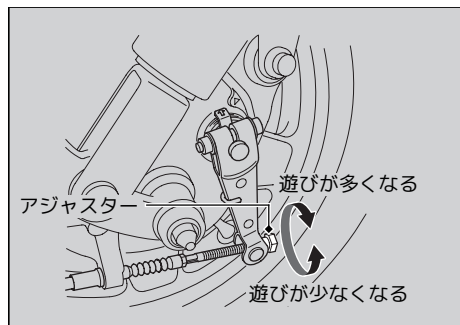
ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。



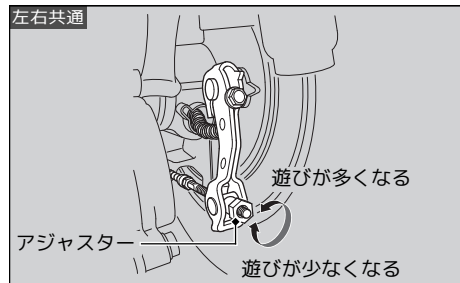
レバーの調整範囲を超えた場合や、詳しい遊びの調整については Honda 販売店にご相談ください。

1. 前輪のアジャスターを半回転ずつ回し、前輪ブレーキレバーの遊びを調整する。

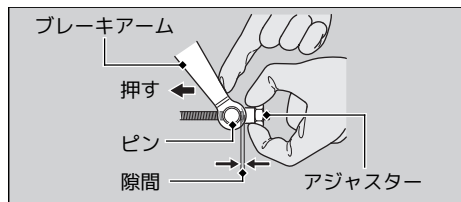


2. 後輪のアジャスターを半回転ずつ回し、後輪ブレーキレバーの遊びを調整する。

▶ 右側のアジャスターを半回転させたら左側も半回転させるというように、左右のアジャスターを半回転ずつ合わせて調整してください。



3. ブレーキアームを押し、アジャスターとピン
の間に隙間があることを確認する。

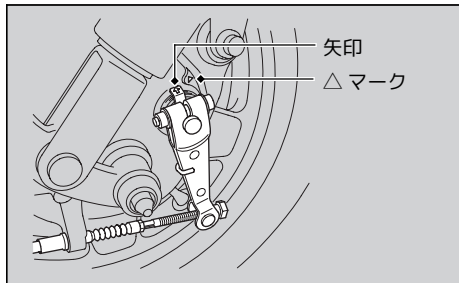


調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

ブレーキシューの摩耗の点検

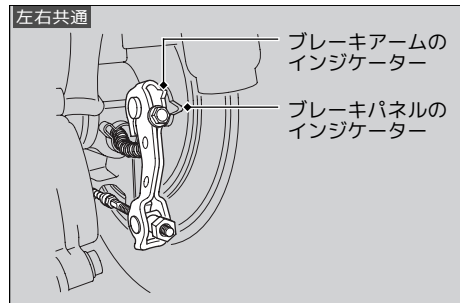
前輪

前輪ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケータの矢印とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。



後輪

後輪ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキアームとブレーキパネルのインジケータの頂点が一致しないことを確認します。



一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。ブレーキシューの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

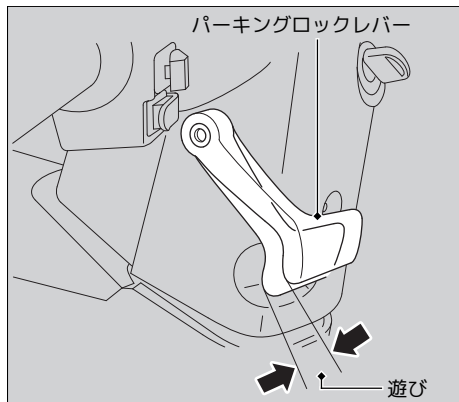
パーキングロックレバーの点検 (Honda 指定 1 年点検整備項目)

パーキングロックを外した状態で作業を行うため、車止めを使用してください。

1. メインスイッチを OFF にする。
2. 車体を保持しながらパーキングロックレバーを下げる。
3. 抵抗を感じるまで、パーキングロックレバーを上げ、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

パーキングロックレバーの遊び：5 - 10 mm

4. パーキングロックをかける。▶ P. 22
規定の範囲を越えている場合は、調整が必要です。Honda 販売店にご相談ください。



ブリーザードレン

ブリーザードレンの清掃 (Honda 指定 1 年点検整備項目)

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレンの清掃が必要です。
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

■ 清掃のしかた

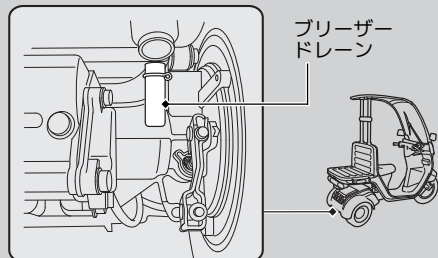
ブリーザードレン

1. ブリーザードレンの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレンを外し、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレンを確実に取り付ける。

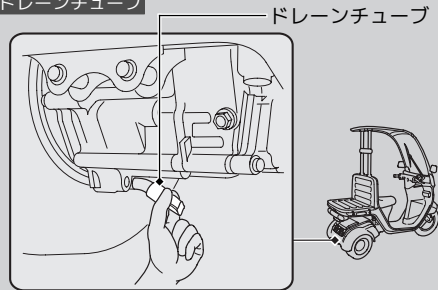
ドレンチューブ

1. ブリーザードレンの下に受け皿などを用意する。
2. ドレンチューブを軽くつまみ、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。

ブリーザードレン



ドレンチューブ

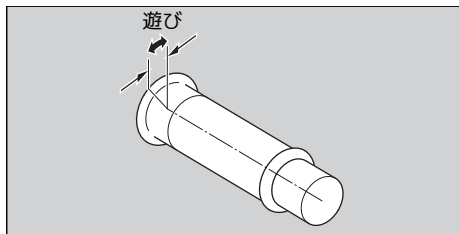


スロットルの点検

メインスイッチを OFF にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 6 mm



こんなときは

エンジンが始動しない	P. 68
オーバーヒート	P. 69
警告灯が点灯／点滅	P. 70
PGM-FI 警告灯	P. 70
速度警告灯	P. 70
電装部品のトラブル	P. 71
ヒューズ切れ	P. 71
エンジンが一時的に不調になる	P. 72

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
➡ P. 24
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
▶ 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
➡ P. 24
- ヒューズが切れていないか ➡ P. 39
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡ P. 38
▶ バッテリーあがり、スターターモーターが回らないときは、キックスターターによる始動を試みましょう。

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、オーバーヒートする可能性があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを OFF にしてエンジンを止める。
 - ▶ ラジエーターカバーに異物等の付着がないか、確認します。異物等がある場合は取り除いてください。
 - ▶ メインスイッチが OFF の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

2. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。▶ P. 52, ▶ P. 53
3. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

水漏れがない場合

走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda 販売店にご相談ください。

- ▶ 異常が再発しない場合でも、なるべく早く Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

走行中またはアイドリング中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行を避け、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

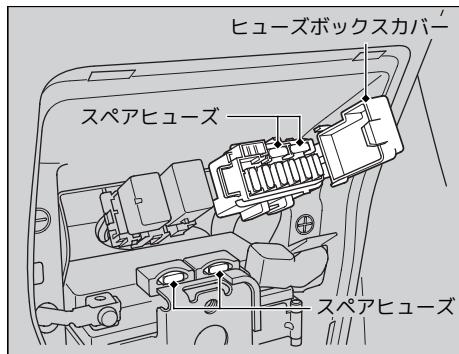
速度警告灯

車の速度が法定最高速度（30 km/h）を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 39

ヒューズ切れ

■ヒューズボックス内のヒューズ



1. バッテリーカバーを取り外す。▶ P. 47
2. ヒューズボックスカバーを開ける。
3. メインヒューズ、その他のヒューズが切れている場合は同じ容量のスペアヒューズと交換する。
▶ スペアヒューズはヒューズボックス内またはバッテリー付近にあります。
4. ヒューズボックスカバーを閉める。
5. バッテリーカバーを取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

エンジンが一時的に不調になる

燃料ポンプのフィルターがつまると、走行中スロットルグリップを戻したような減速が散発的に発生します。

この症状が発生しても再走行は可能です。

ガソリンがあるにもかかわらず、走行中一時的なエンジン不調が発生した場合は、直ちにHonda 販売店にご相談ください。

こんなときは

インフォメーション

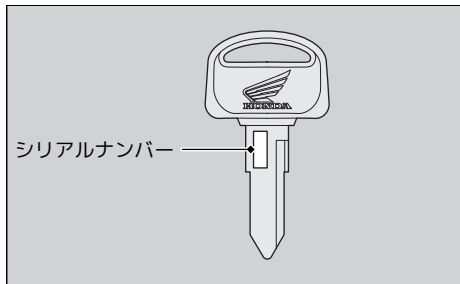
キーの取り扱い.....	P. 74
装備に関する補足情報	P. 74
車のお手入れ.....	P. 75
保管のしかた	P. 78
廃棄するとき	P. 78
フレームおよびエンジンナンバー	P. 80
触媒装置について	P. 81

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーには、シリアルナンバーが打刻されています。

このシリアルナンバーは、メインスイッチのキーを注文するときに必要になります。メインスイッチのキーを注文する際は、Honda 販売店にご相談ください。盗難防止のため、シリアルナンバーは他人に知られないように保管してください。



キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。

装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを ON の状態にしておくともバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

■ オドメーター

オドメーターは、99,999.9 km を超えると 00,000.0 km に戻ります。

■ 書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シート裏側に収納してください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジが柔らかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

Ⅰ 洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
 - ▶ マフラーはエンジンカバー内部にあります。
 - ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーター周辺に水を強くかけない
 - ▶ エアクリーターはエンジンカバー内部にあります。
 - ▶ エアクリーター内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。
- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
 - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
 - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
 - ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

- ヘッドライトがくもったとき
 - ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。
 - ▶ ヘッドライトを点灯すると、くもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、ルーフ、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、クリーナーなどがつかないようにする
- スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない

エキゾーストパイプ、マフラー

エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
 - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車に乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

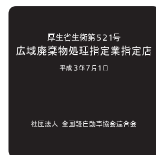
廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイル、トランスミッションオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。

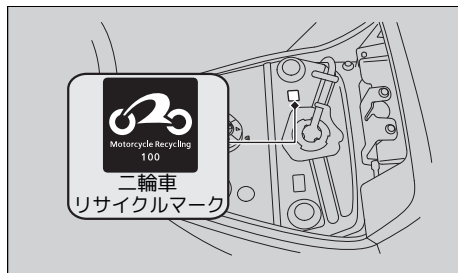


二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。▶ P. 31

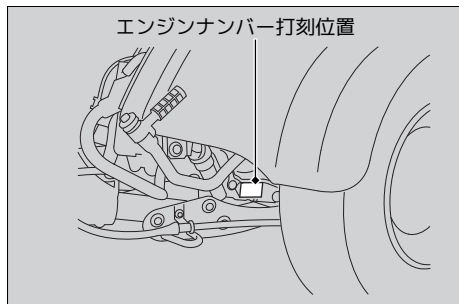
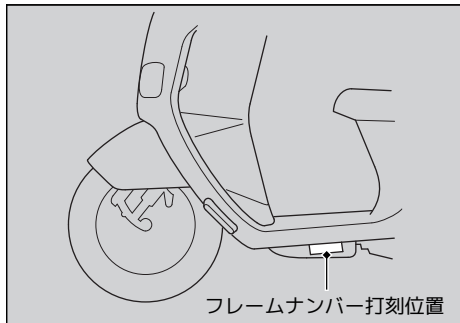


お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Honda ウェブサイト「廃棄段階のリサイクル 二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認ください。

<http://www.honda.co.jp/motor-recycle/>

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。



触媒装置について

この車は平成 28 年排出ガス規制適合車です。この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

スペック

■ 主要諸元

型式	2BH-TA03
全長	1,895 mm
全幅	660 mm
全高	1,690 mm
ホイールベース	1,410 mm
最低地上高	85 mm
キャスト角	27° 0'
トレール長	60 mm
車両重量	139 kg
乗車定員	1 名
最小回転半径	2.0 m
排気量	49 cm ³
ボア×ストローク	38.0 x 44.0 mm
圧縮比	12.0
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	5.9 ℓ
バッテリー容量	YTZ7S 12 V-6 Ah (10 HR)
変速比	無段変速 2.950 ~ 0.815 機関から変速機 1.000
減速比	第一 3.500 第二 4.083

■ サービスデータ

ブレーキ	10 - 20 mm
レバーの遊び	
パーキングロック	5 - 10 mm
レバーの遊び	
タイヤサイズ	前輪 100/100-12 62J 後輪 130/70-8 42L
タイヤタイプ	バイアス、チューブレス
指定タイヤ	前輪 IRC PZ-30F 後輪 IRC PZ-35R
タイヤ空気圧	前輪 175 kPa (1.75 kgf/cm ²) 後輪 175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
点火プラグ	標準 ER8EH-N (NGK)
プラグギャップ	0.6 - 0.7 mm
アイドル回転数	2,000 ± 100 rpm
推奨	Honda 純正 ウルトラ E1
エンジンオイル	JASO T 903 規格：MB SAE 規格：10W-30 API 分類：SL 級
エンジンオイル	オイル交換時 0.49 ℓ
容量	全容量 0.6 ℓ
エンジンオイル	初回：1,000 km または 1 ヶ月
交換時期	以後：6,000 km または 1 年ごと
推奨トランス	Honda 純正 ウルトラ E1
ミッションオイル	JASO T 903 規格：MB SAE 規格：10W-30 API 分類：SL 級
トランスミッション	オイル交換時 0.33 ℓ
オイル容量	全容量 0.35 ℓ

トランスミッション	初回：5 年
オイル交換時期	以後：4 年
冷却水容量	全容量 0.57 ℓ
指定 ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液
エアクリナー 交換時期	交換：10,000 km ごと
ウォッシュタンク 容量	1.2 ℓ

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	12 V-18/18 W X2
ストップノテールランプ	12 V-18/5 W
フロントウィンカー	12 V-10 W X2
リアウィンカー	12 V-10 W X2

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	15 A、10 A、5 A

P

PGM-FI 警告灯 18, 70

ア

アクセサリ 12

安全運転のために 4

安全上守っていただきたいこと 3

安全なライディング 2

イ

インフォメーション 73

ウ

ウィンカー（方向指示器）スイッチ 20

ウォッシュ液噴射スイッチ 20

運転するときの注意 7

エ

エアクリナー 42

エンジン

エンジンオイル 40, 48

エンジン始動 24

エンジンナンバー 80

エンジンがかからないとき 26, 68

オ

オーバーヒート 69

お手入れ 75

オドメーター 74

カ

改造 12

各部の名称 16

ガソリン 11, 29

カラーラベル 37

キ

基本操作の流れ 14

ケ

警告灯

PGM-FI 警告灯 18, 70

速度警告灯 18, 70

コ		
交換部品	37	
こんなときは	67	
サ		
サイドプロテクター	33	
シ		
シート	31	
触媒装置	81	
書類入れ	33, 74	
ス		
スイッチ		
ウinker（方向指示器）スイッチ	20	
ウォッシュ液噴射スイッチ	20	
スタータースイッチ	20	
ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ	20	
ホーンスイッチ	20	
メインスイッチ	21, 74	
ワイパースイッチ	21	
スタータースイッチ	20	
スタートの手順	27	
スピードメーター（速度計）	18	
スペック	82	
スロットル	66	
セ		
積載について	13	
洗車	75	
ソ		
速度警告灯	18, 70	
その他装備	31	
タ		
タイヤ	43	
正しい運転の操作	27	
チ		
駐車	8	

テ		
点検		
定期点検	36	
日常点検	35	
電装部品のトラブル	71	
ト		
トランスミッションオイル	41, 50	
ナ		
慣らし運転	7	
ネ		
燃料		
使用燃料	29	
燃料残量	18	
燃料タンク容量	29	
燃料補給	29	
燃料計	18	
ハ		
パーキングロックレバー	22	
		廃棄
		78
		バッテリー
		38, 46
		バッテリーカバー
		47
		ヒ
		ヒューズ
		39, 71
		表示灯
		方向指示器表示灯
		18
		フ
		服装
		6
		ブリーザードレン
		42, 65
		ブレーキ
		使いかた
		7, 28
		ブレーキシステム
		7
		ブレーキシュー
		63
		フレームナンバー
		80
		ヘ
		ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ ...
		20
		ヘルメット
		6
		ヘルメットホルダー
		32

ホ

方向指示器表示灯.....	18
ホーンスイッチ	20
保管.....	78

メ

メインスイッチ	21, 74
メインスイッチのキー	74
メンテナンス	34

リ

リアデッキ	13
リサイクルマーク.....	79

レ

冷却水.....	42, 52
----------	--------

ワ

ワイパースイッチ.....	21
---------------	----

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

オーハローバイク
フリーダイヤル **0120-086819**

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名



30GFZ620
00X30-GFZ-6200

© 2000.2017.08.J
© 2017 本田技研工業株式会社